

新連載

救急蘇生の新しい動き

GRA (Global Resuscitation Alliance)

～ OHCAの社会復帰率をさらに改善させるための世界共同の取組み～

第一回 GRA (Global Resuscitation Alliance) とは

一般財団法人 救急振興財団 救急救命東京研修所 田邊晴山

はじめに

わが国の院外心停止 (OHCA : Out-of-hospital Cardiac Arrest) からの社会復帰率は、少しずつ向上しています (図1)。これは、一般市民への救急蘇生法の普及、AEDの市中への設置、通信指令による口頭指導の実施、救急隊員・救急救命士による救急業務の質の向上、医療機関での治療の進歩など、市民、消防、医療を中心とした多くの個人や団体の地道な取組みの結果です。

しかし、それでもなお、OHCAの社会復帰率は低値にとどまっています。目撃のある心原性心停止に限ってみても9.1% (2018年) と、10人に1人が社

会復帰しているに過ぎない状況です。まだまだ改善の余地が大きく残されています。これは、他の先進諸国でも概ね同様の状況です。

社会復帰率のさらなる向上のために

社会復帰率のさらなる向上のためには、蘇生に関する医学の発展が欠かせません。しかし実際には、そのみで現実世界の社会復帰率を向上させるのには限界があります。医学の発展が、すぐに現実の世界に反映できるわけではないのです。蘇生に関する医学の新たな発展は、教育に反映され、市民、救急隊員、医療従事者が知識・技術として身に付ける必

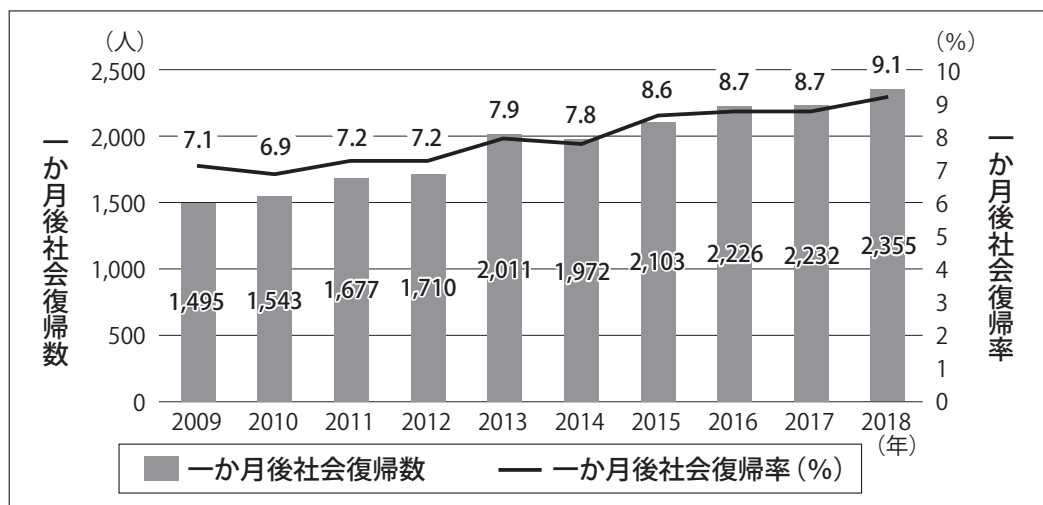


図1 一般市民が目撃した心原性心停止の一か月後社会復帰 (10年推移)
「令和元年版 救急救助の現況」を改変

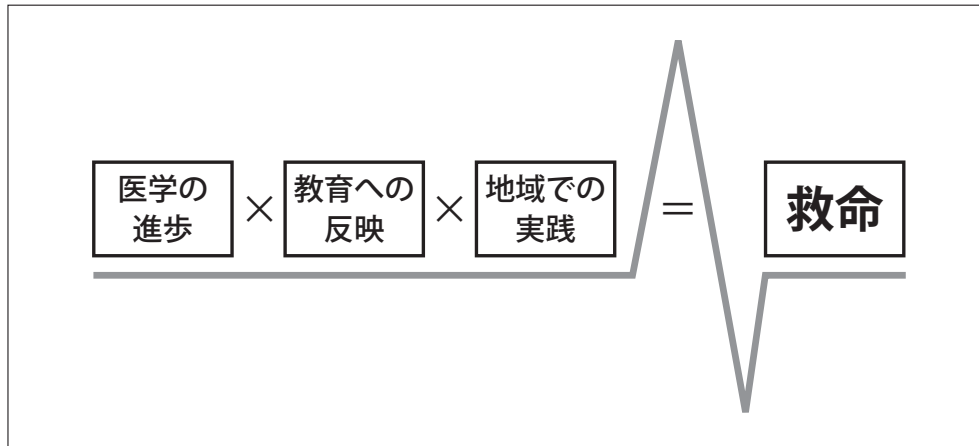


図2 The Utstein formula for survival (救命のウツタイン方程式)
(The formula for survival in resuscitation. Resuscitation. 2013Nov;84 (11):1487-93. を改変)

要がありますし、その身に付けた技術を地域で実践できる体制づくりも必要です。

例えば、医学の進歩として AED が作られても、その使い方が市民に伝わらなければ使用されないし、市民に使い方が普及しても AED がどこに設置されているかわからなければ AED は活用されないのです。また、絶え間ない胸骨圧迫の重要性が医学的に明らかになっても、胸骨圧迫の中断の少ない救命処置のスキルを救急隊員が身に付けなければ実行できないし、身に付けても、それを生かせる地域のプロトコルがなければ実践できません。これらのことには、一定の経験のある救急隊員、医療従事者なら実体験として気が付いていることでしょう。

このように、OHCA の救命、社会復帰率の向上には、“医学の進歩”、“教育への反映”、“地域で実践できる体制”のいずれもが必要不可欠なのです(図2)。

グローバルな動き

蘇生に関する医学の進歩については、国際蘇生連絡委員会 (ILCOR) が世界中のエビデンスを取りまとめ、「心肺蘇生と救急心血管治療の科学についての国際コンセンサスと治療推奨 (CoSTR)」として発表しています。そして、各国が CoSTR をもとに国ごとのガイドラインを作成するという流れが定着しつつあります。

しかし、CoSTR や国ごとのガイドラインの教育への反映、地域で実践できる体制づくりについては、

必ずしも定まった手順やノウハウが世界的に共有されている状況ではありません。近年、このような課題に対してグローバルに取り組む活動が、Global Resuscitation Alliance (GRA) として少しずつ本格化しています。

GRAとは

GRA とは、OHCA に対する医学の発展を、世界において、効率よく教育に反映させ、地域での実践に結び付けるための方策を考え、その普及を図り、もって世界の OHCA の社会復帰率の改善を図ることを目的に作られた国際団体です。GRA は、米国のシアトル市やキングカウンティ郡の心停止に対する体系的な救命率向上のための取り組みである Resuscitation Academy (RA) がもととなり、発展して組織されたものです。

連載シリーズの予定

今回は GRA の簡単な紹介だけですが、次回以降は GRA の具体的な取り組みについて、日本の現状などにも触れながら、複数回にわたりご紹介したいと思います。なかには、GRA の取り組みにより、驚くほどの社会復帰率の向上がなされた地域の報告もあるでしょう。多数の執筆者によるリレー連載です。乞うご期待ください！